

Bridge ~市民病院と地域をつなぐ~

Vol.11
2021.4月

— 目次 —

- 院長退任のご挨拶
- 新院長からのご挨拶
- 新任副院長の紹介
- 昇格部長のご紹介
- 続・Total Breast Care

発行：豊橋市民病院 患者総合支援センター
0532-33-6111 (内)1491

院長退任のご挨拶

私は令和3年3月末定年退職を迎えることになりました。重責を全うできましたのは、登録医の皆様の当院の運営と活動に対するご協力・ご支援の賜物であり、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。院長在籍の5年間は病院の機能強化の期間で、さまざまなハード面の整備が行われました。高度放射線棟の開設と手術センター棟の増設をはじめ、手術支援ロボットの複数化、CTやMRI機器更新など、枚挙にいとまがありません。平成8年に当地に移転した施設が20年経過し、次世代の医療を担うためのセカンドステージに進歩、発展することができたと思います。



加藤 岳人 前院長

こういった設備投資に必要な病院経営には、登録医の先生方から多くの患者さんを紹介していただくほかありません。そのために必要な信頼を得るには、断らない救急医療、高度な先進医療を提供することが唯一の道であると信じ、遂行してまいりました。

最後の1年間はコロナ禍に翻弄され、特に今年1月には病床が逼迫しましたが、春の訪れとともに感染発生が減少しております。しかしながら、その終息は道半ばで、パンデミックを気にせず日常診療が行える日が早く来ることを願うばかりです。

私は診療や経営の第一線からは引退しますが、ひきつづき地域の医療に貢献すべく、元の臨床医に立ち回り、病院での診療を続けてまいります。4月以後、新院長のもとでさらに発展していく豊橋市民病院をよろしくお願い申し上げます。

新院長からのご挨拶



浦野 文博 新院長

令和3年4月より加藤岳人前院長の後任として、院長に就任しました浦野文博でございます。紙面をお借りして皆様にご挨拶申し上げます。

私は、昭和60年、名古屋大学を卒業、大垣市民病院にて研修、名古屋大学第二内科を経て、平成8年4月に当院に赴任してまいりました。当院では、故瀬川昂生先生、岡村正造先生のもと、消化器内科、特に肝臓病を中心に診療してまいりました。加藤先生の院長就任と同時に副院長を拝命し、加藤前院長の指導の下、その職務に従事してまいりました。

現在、新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、この地域でも猛威をふるい、患者数は豊橋市でも1,000名を超えています。皆さまにおかれましては、感染拡大防止のための外出自粛や「3密」を避ける行動など大変不自由な生活を送られていることと存じます。3月には医療関係者にワクチン接種が始まりましたが、この感染症が収束するにはまだ時間がかかるとおられます。世の中が新しい生活スタイルに移行し、医療を取り巻く情勢がめまぐるしい変化を見せるこの時期に院長就任という重責を託されたことに、身の引き締まる思いがしております。

当院は感染症指定医療機関としてこれからもこの感染症に対して、適切な医療を提供して参るとともに、当院の本来の役割である地域の基幹病院としての救急医療やがん診療に対しても診療の質を落とすことなく、高度な医療も提供し続けてまいります。さらに、この感染症による患者受療行動の変化に応じて、当院での診療体制も柔軟に見直していく必要があると感じています。

当地域で暮らす人々の健康を守るためには、皆様との良好な関係と協力が必要であり、引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

続・Total Breast Care

豊橋市民病院乳腺外科部長 藤井 正宏

日本乳癌学会 専門医・指導医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
検診マンモグラフィ読影認定医(As)

1年以上続くCOVID-19も、ようやく収束するかに思われる昨今ですが、まだまだ気は抜けません。私達も、日々の「新たに確認された感染者数」から、目が離せない日々が続いています。

乳がん発症と生活習慣、乳がんを疑う症状、COVID-19流行下でのがん診療の留意点について記載致しました。既にご存じの事ばかりかもしれませんが、地域連携パスで、診療をお願いしてるがん患者様に向かい合う時の、参考になれば幸いです。

乳がん和生活習慣

発症の可能性を高くする要因

確実 肥満(閉経後) アルコール 良性乳腺疾患 成人期の高身長 高い初産年齢
出産経験無し
ほぼ確実 遅い閉経年齢 早い初経年齢 喫煙 出生時体重が重い
可能性あり 受動喫煙 夜間勤務

発症の可能性を低くする要因

確実 授乳 出産 低い初産年齢
ほぼ確実 運動(閉経後) 肥満(閉経前)
可能性あり 運動(閉経前) 乳製品の摂取 大豆食品・イソフラボンの摂取

発症の可能性を高くする要因の中には、自助努力では避けられないものもありますが、生活習慣を改善する事で、発症の可能性の抑制に繋がるものもあります。生活習慣の指導は、がんの他のがん腫同様に、有効と考えられます。

乳がんを疑う症状

症状	鑑別疾患
しこり	良性腫瘍
皮膚の陥凹	乳癌の可能性が高いです
乳汁分泌	乳管内乳頭腫
乳頭部のびらん	皮膚炎
発赤	乳腺炎 皮膚炎
痛み	乳腺炎 乳腺症
形の左右非対称	生理的非対称

乳房という限られた部位ではありますが、多彩な症状を鑑別する必要があります。上記症状を訴える患者が受診して、判断に迷いましたら、当院乳腺外科に、ご紹介ください。

乳がんは、患者自身が見つけれられる、数少ないがんです。自己検診を勧めて、乳房への関心を持っていただくのも大切です。

- ・月1度のチェック
- ・鏡の前でのチェック。上肢を下した状態・挙げた状態で、皮膚の陥凹・発赤・形状の変化・乳頭のびらんなどをチェック
- ・仰臥位で、しこりの有無のチェック

【疫学的なこと】

Q1. がん患者は新型コロナウイルスに感染しやすいですか？

A1. がん患者においては、がんそのものにより免疫状態が低下している可能性があります。またがん治療には、化学療法をはじめとして免疫状態が下がる治療方法が用いられます。新型コロナウイルスはウイルス感染症であり、免疫力が低下した状態で感染する可能性が高いと想定されます。

Q2. がん患者が新型コロナウイルス感染の予防に関して気をつけた方が良いことはありますか？

A2. 新型コロナウイルスは非常に感染性が高いことが分かっています。がん患者ではない方と同様、外出を控え、密集・密閉・密接のいわゆる三密を避けることが重要です。また手洗い、咳エチケットなども基本的な予防行動を取ることが勧められます¹⁾。具体的な行動に関しては厚生労働省「新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の実践例²⁾」を参考にしてください。

さらにがん患者に特有な新型コロナウイルス感染予防として、不急な病院受診を控えることも考慮されます。あるいは昨今国内でも導入された電話・オンライン診療³⁾を利用するなどの対策を取ることで、リスクを下げるのが可能です。受診される際には、公共交通機関ではなく自家用車を利用することで、他の人と接触する機会を少なくすることができます。

【治療全般のこと】

Q1. 現在、がんの治療を受けています。延期した方がよいのでしょうか？

A1. お住まいの地域の感染状況などにより、がん治療を延期した方がよい場合には、主治医から提案や説明があるでしょう。不安に思って自分で判断することなく、主治医とよく相談してみることがなによりも大切です。通院や自宅療養の際には、マスクを着用する、手指衛生を小まめに行う、換気する、家族以外との会食を控えるなどをこれまで通り行いましょう。また、感染を疑う体調の変化がみられる場合、濃厚接触者となった場合には、必ず受診する前に主治医へ連絡してください。

Q2. 新型コロナウイルス感染症が疑われる症状がある場合、がんの治療をやめた方がよいのでしょうか？

A2. もしご自身に新型コロナウイルス感染症を疑う症状がある場合には、ご自分で判断せず、事前に、主治医やかかりつけの医療機関に連絡して、ご相談ください。主治医に、具体的な症状と症状が出た時期などの詳細を伝えてください。がんの治療内容や病状と勘案して、その後の対処方法について指示を受けましょう。また、ご自分が濃厚接触者となった場合も、主治医にご相談ください。

Q3. 治療が変更されて(予定より遅れて)、必要な治療を受けられているか、がんが進行しないか心配です。

A3. 新型コロナウイルス感染症の影響で、がんの診療の予約や治療予定が変更される場合があります。また定期的に受けていた検査が受けられないことで、がんや治療の状況が心配になる方もいるかもしれません。かかりつけの医療機関では、感染拡大防止対策を徹底し、主治医はがんの進行状況や治療効果、地域の流行状況などから総合的に判断して治療方針を提示しています。心配なことや質問があれば、その内容を書き留めておき、主治医に忘れずに質問してください。

Q4. がんの治療を受ける予定です。通院や入院をするのに、注意することはありますか？

A4. すでに受診予定の医療機関がある場合には、医療機関のホームページや電話で、受診方法の留意点などについてご確認ください。また受診予約があり、新型コロナウイルス感染症と疑われる症状がある場合には、事前に必ず医療機関に連絡するようにしてください。

これから治療する病院を選ぶという場合は、通院の距離について、これまで以上に考慮する必要があります。感染拡大している地域に希望する病院がある場合、通院の際の移動に不安が生じる場合があるでしょう。放射線治療や薬物療法など、治療内容によっては毎週、あるいは毎日のように外来通院する場合がありますので、治療病院を選ぶ際にご考慮ください。

患者数や診療している医療機関に限られる希少がんなどの場合を除き、多くのがんでは標準治療(現時点で最も安全で、最も効果が高いと科学的に裏付けられた治療)が確立されています。がん診療連携拠点病院をはじめとする標準治療を実施している病院であれば、診療実績などの数にこだわり過ぎる必要はないと知っておくのもよいでしょう。どのように選んだらよいかわからないなど、がん相談支援センターで相談に応じています。必要に応じて活用してください

親任副院長の紹介

成瀬 賢伸 (ナルセ ケンシ)

循環器内科第一部長
兼経営企画室長
兼専門医研修センター副センター長



令和3年4月より副院長に就任しました成瀬でございます。豊橋市民病院に赴任して26年間、循環器内科の診療に邁進して参りましたが、このたび副院長を拝命し、病院全体に関わる仕事に携わることになり、その責任の重さをひしひしと感じております。

市民病院は大きな組織で、様々な機能を持った部門が関わり合いながら成り立っています。その中で、今回役割を与えて頂きました「経営企画室」「専門医研修センター」を中心に、病院運営に貢献できるよう努力していきたく思います。循環器内科1部長は継続となります。医師会の先生方との連携をよりいっそう強化して、豊橋市の循環器の医療の向上にも引き続き貢献していきたく思います。

COVID19問題の解決が見えない現在、病院運営も日常診療も難しい舵取りが求められますが、私自身豊橋市民病院、及び豊橋市の医療の向上のために精一杯頑張りますので、どうかよろしく願いいたします。

間瀬 有奈 (マセ アリナ)

看護局長
兼入退院支援センター長



令和3年4月より副院長
兼看護局長兼入退院支援
センター長を拝命いたしました。

役割が2つ増えたこと、豊橋市民病院初めての看護師としての副院長の立場に重責を感じております。

看護師の強みと組織力を生かし皆さんのお力も借り、微力ながら精一杯努めてまいりたいと思います。地域の皆様とあらゆる角度からコロナ禍での看看連携の強化を図り、入院期間のみならず患者様の入院生活が人生の一部であることを考え、その人らしく過ごせるような関わりを多職種と協働しながら行っていく所存です。地域の医療・看護が向上するような関係づくり、それぞれの存在価値を有意義に発揮できるよう貢献したいと思います。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

昇格部長の紹介

病理診断科 新井 義文 (アライ ヨシフミ)

昨年10月より着任しました病理診断科の新井義文と申します。平成10年浜松医科大学の卒業です。豊橋市民病院は卒業後まもなく非常勤病理医として勤務した思い出深い病院です。このたびご縁をいただいて当地に着任したことを大変嬉しく思っています。

病理診断科は直接患者様と接する科ではありませんが、生検や手術材料の向こうには担当医の先生方を介して患者様がいらっしゃることを常に意識し、迅速で丁寧な診断を心がけております。また、昨今は悪性腫瘍に関連して治療に直結する遺伝子検査の重要性が増しています。その多くは病理検査材料が用いられており、診断だけでなく検体管理の面からも責任の大きさを感じています。

病理診断を通して地域の皆様のお役に立つことができるよう努める所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



消化器内科 松原 浩 (マツバラ ヒロシ)

消化器内科第一部長を務めます松原浩と申します。地元出身で、研修医時代から豊橋の諸先生方にはお世話になっております。名古屋大学消化器内科胆膵グループで研究、研鑽を積み、その後再び豊橋に赴任してから10年が経過しております。

これまでやってこられたのも、地域の諸先生方の多大なるご協力があってこそだと考えております。この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

令和3年4月から、診療科長を務めることの責任の重大さを痛感しております。まだ若輩の身ではありますが、これまで以上に地域の医療に貢献できるよう精一杯尽くしてまいります。叱咤激励、ご相談など、何かございましたら何なりとお申し付けください。様々なご意見に耳を傾け、かつ科の情報発信に努めて参りたいと思っております。

今後とも、より一層のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

